

日米安全保障条約の歩みと集団的自衛権

目的：旧日米安全保障条約の締結から60年、現行の条約の発効から50年経った現在に至るまで多くの出来事があったが、それら出来事を振り返りつつ、現在の日本とアメリカ、アジアとの関係を考え、これからの条約のあり方を考察する。

第1章 日米安全保障条約の成立（1952年）

第1節 条約締結背景

第2節 条約内容

第2章 日米安全保障条約の改定（1960年）

第1節 条約改定背景

第2節 改定点と安保の行方

第3章 条約の問題点

第1節 沖縄の基地（基地について+事件）

第2節 在日米軍と日米地位協定

第3節 非核三原則

第4章 新たな議論

第1節 集団的自衛権

第2節 自衛隊海外派遣

第3節 武器輸出三原則

第4節 ライセンス問題

第5章 今後の条約の在り方

結論：日本は今後も現在の国家の現状を維持するならば日米安全保障条約は結び続けなければならない。ただし、50年前に締結された条約であるが故の古さから現代の流れに合わないものになりつつなるので、今後この条約は改定される必要性が高いと考える。